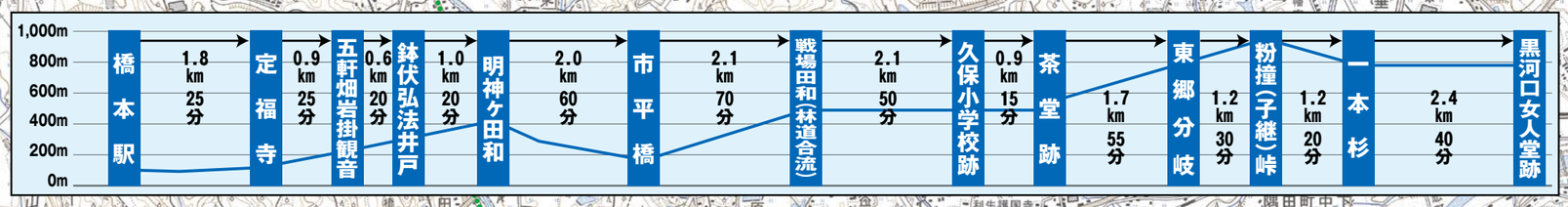
高野参詣道
黒河道・京大坂道



①定福寺

本尊阿弥陀如来坐像は平安時代中期の古仏(和歌山県指定文化財)。庫裏は高野山の僧が避寒に用いる里坊の様式を残す(国登録有形文化財)。黒河道沿いの参道石段脇には九重石塔があり、弘安８年(1285)の銘を刻む(橋本市指定文化財)。



②五軒畑岩掛観音

西国巡礼のミニチュア版として橋本市清水・西畑・向副・賢堂・南馬場で巡拝するもので、文政 13年(1830)にはじまる。岩掛観音は西国 14番大津三井寺にあてられている。ここからの橋本市街の眺めはすばらしい。



③鉢伏弘法井戸

鉢伏の名は山の形が鉢を伏せた形状であることに由来するとも、蜂が群生して住民を苦しめていたところ弘法大師が群がる蜂に大喝して蜂を伏せたことに由来するともいう。井戸は大師の加持水と伝える。



④明神ヶ田和

明星ヶ田和ともいう。弘法大師がここで護摩供を行い、明星から無数の流星が出現したことからこの名があるともいわれる。黒河道の橋本市内での最高所でもある。賢堂・青淵・国城山・清水・わらん谷（黒河道）へ至る道がここで分岐する。



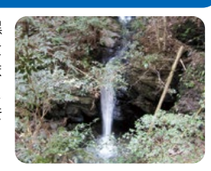
⑤給水施設

明神ヶ田和の南約 600 m、沢の水を取水して明神ヶ田和へポンプアップしていた施設で、国城山麓の橋本市西畑・清水へ給水していた。



⑥藁谷の滝

給水施設の南約 700 m、黒河道の西側の谷が深くなると落差５m程度の滝が目に留まる。藁谷では最も大きな滝で、霊場高野山へ向う旅人の心を清めたことであろう。



⑦赤石

藁谷の滝の約 100 m南、黒河道に突き出した巨石がある。黒河道を行き交う旅人の目印となった。南へ約 200 mで橋本市と九度山町の境界となる。



⑧市平春日社

黒河道から見上げる石段の上に鎮座する春日社。その背後に大いなる桂の樹がそびえている。3月末から4月中旬のわずかな期間に桃から緑、そして黄色に変化する姿は貴重な光景。





⑨市平石地蔵

市平の春日社から久保に向って九十九折の急坂を登ると道の山側に小さな石の地蔵がまつられている。急坂を登ってきた旅人はここで一息つき、地蔵に旅の安全を願ったと想像される。



⑩戦場田和

黒河道と林道が交差する戦場田和は北へ黒河道の急坂を下ると市平へ、林道を東へとると柿平へ、南に向って黒河道を進むと太閤坂を経て久保へ、西へ林道を辿ると戦場山を経て久保に至る。



⑪久保の道標

「往来安全」と刻んだ台石の上に、弘法大師像と観音菩薩像、南無大師遍照金剛と南無観世音菩薩と２段に刻まれている。向って左側面には「右かうや(高野)左まにん(摩尼)道」と記し、ここで高野山への道と旧摩尼村への道が分岐する。また、現在は九度山町河根からの舗装道がここへ合流する。



⑫くどやま森の童話館

旧久保小学校の校舎と敷地を活用して、豊かな自然・童話(本)・音楽レコード等に関する多くの資料を備え、豊かな森の力で、開放感と癒やしを与えてくれる施設です。

黒河道と接するこの施設は休憩所としても利用され、毎年春には、町指定天然記念物である「久保のヤマザクラ」の巨木が見事な花を咲かせます。



⑬茶堂跡

黒河道を利用する参詣者に湯茶の接待を行った施設で、昭和末年頃まで江戸時代の堂が残っていたが、現在はプレハブに変わっている。

同内には湯茶の接待に用いられた釜や道具類・茶所の版木・石造の大師堂等がのこされ、黒河道を知るうえで非常に貴重な遺産である。



⑭大黒岩

黒河道は茶堂を過ぎた辺りから高野山に向って急な上り坂となる。その途中に大黒岩がある。大黒岩には大師の足跡とされる窪みがあり、いよいよ高野山へ至ろうとする参詣者の気持ちを高めたことでしょう。





⑮高野豆腐製造所跡

気温が下がる高野山周辺では凍り豆腐の生産が盛んで、高野豆腐と呼ばれた。黒河道沿いにもその跡があって、凍り豆腐製造所跡の水槽跡や大きな石臼が今に残り、当時を偲ばせている。



⑯東郷分岐

黒河道から東郷へ行く道が西へ分岐している。樹間から北方を望むと晴れた日には紀見峠の向こう側に南河内が見渡せ、PL の塔も見ることができる。





⑰粉撞峠

子継峠などとも表記され、黒河道の最高所にあたる。楊柳山への分岐で、女人道・高野三山道と合して山内に向う道となる。高野山の内外を画する結界にあたり、地蔵石仏を納めた小堂が建っている。石仏には永正９年(1512)の年号と「検校重任」の銘が読み取れ、黒河道の歴史が察せられる。



⑱一本杉

粉撞峠から山内に向って下り、奥院の背後に出るところに大きな一本杉が立つ。一本杉の根には花崗岩製の道標が２基建てられ、「右てんしく（転軸）山左おくのゐん」とあり、ここで黒河道から奥之院への道が分岐する。



⑲黒河口女人堂跡

高野町役場の北東約200ｍに「黒河口」の立札が建てられている。高野七口の一つ黒河口の女人堂があったところ。明治初期まで高野山は女人禁制が守られていたため、高野山への７つの入口である高野七口にはそれぞれ女人堂があり、ここから山内への女性の立ち入りを禁じていた。現在は不動坂口にのみ女人堂が残る。



豊臣秀吉と黒河道

文禄３年（1594）3月、豊臣秀吉が高野参詣の帰途この道を用いたとされ、その経路が『紀伊続風土記』などに見えます。秀吉が高野下山の際、千手院口から銅嶽（雪池山）の北を通って、久保村・市平村を経て、丹生川を渡り、藁谷から明星が鶯（明神ヶ田和）を越え、紀の川を渡って橋本町へ出たとのルートが記されています。当時、天下人であった秀吉が利用した道であり、主要な参詣道の一つであったことがうかがえます。また、周辺の村々の産物を高野山へ納める「雑事のぼり」にも用いられました。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を複製したものである。(承認番号　平30情複、第223号)